

◎佐渡アイランド集落ツーリズム構想の実現に向けて

【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】のプランニングに関する確認と提案

(1)小学校区単位を原則とする地域づくりのあり方について

- ①防災・減災対策
- ②コミュニティスクールからスクールコミュニティへ
- ③高齢者が元気に輝き続けるムラづくり

(2)環境の島づくりについて

- ①環境省の一部を佐渡へ誘致という提案
- ②佐渡空港 2,000m化の方針と経済波及効果
- ③シュタットベルケ（自治体所有の公益企業）という考え方

(3)持続可能な佐渡市政運営について

- ①持続可能な財政運営
- ②SDGs（持続可能な開発目標）の取り組み⇒SaDoGsへ
- ③ソサイエティ（社会）5.0へ向けて

■■■演壇にて■■■

皆さん、こんにちは。三度のメシより佐渡が好き!!! 政風会の室岡啓史でございます。『なんでも提案団』として通告に従い一般質問をいたします。

なお、配布資料のPDFデータは、『室岡ひろしと佐渡の明るい未来をつくる会』オフィシャルサイトにアップしておりますので、テレビをご覧の方は『室岡ひろし』で検索していただき、是非ともご確認ください。

佐渡の農山漁村の生業を大切に、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とながっていく世界観、『佐渡アイランド集落ツーリズム構想』の実現にむけて質問いたします。

## 【しごとづくり】【ひとづくり】【まちづくり】のプランニングに関する確認と提案

### (1)小学校区単位を原則とする地域づくりのあり方について

#### ①防災・減災対策

#### ②コミュニティスクールからスクールコミュニティへ

#### ③高齢者が元気に輝き続けるムラづくり

過去の一般質問で継続的に取り上げております。小学校区単位を原則とする地域づくりのあり方について質問します。花角英世新潟県知事は、『住んでよし、訪れてよし！の新潟県に』という公約を掲げ、当選されました。佐渡市としても当然、『住んでよし、訪れてよし！の佐渡に』という思いを新たにするとお思います。また、防災・減災対策は『喫緊の課題』と対策重視、河川改修を軸とした防災・減災対策を重視する意向を示されております。『少ない予算で効果が出る方法や、お金をかけずに防災力が高まる方法などソフト・ハード合わせて考えたい』と強調されております。その通りだと思っております。そこで、佐渡市としても防災・減災対策をソフト・ハード両面から考える必要があると思っております。地域防災力を高めるためには、自助・共助・公助のうち、共助の意識を高める必要があると思っておりますが、市民の皆さんに対してどのように働きかけをするのでしょうか。また、事前対応型の治山治水事業について、県への要望をどのようにしていくおつもりなのか、佐渡市の見解をお聞かせください。

次に、コミュニティスクールからスクールコミュニティへという考え方についてお尋ねします。去る10月、秋田県大館市へ行政視察で赴き、教育や子育て支援の取り組みについてのお話を伺って参りました。秋田県大館市立城西小学校の校長先生からは、大館市内の小学校17校のうち、コミュニティスクールは1校のみ。ふるさと教育とキャリア教育とを融合させて、『ふるさとキャリア教育』として地域と学校が連携しており、コミュニティスクールからスクールコミュニティへのシフトが起こっている、とお話でした。文部科学省によると、コミュニティスクール(学校運営協議会制度)は、『地域とともにある学校づくり』のこと。スクールコミュニティ(学びの共同体)は、『学校を核とした地域づくり』のことであると定義づけられております。佐渡市としては、2020年度に全小中学校をコミュニティスクールにするという方針ですが、これらの考え方についての佐渡市の見解をお聞かせください。

最後に、高齢者が元気に輝き続けるムラづくりについてお尋ねします。岩手県八幡平市へ行政視察で赴き、地域包括ケアシステムの取り組みについてのお話を伺って参りました。また、八幡平市役所その他、特別養護老人ホームりんどう苑、日本版CCRCオークフィールド八幡平(サービス付き高齢者向け住宅)、東八幡平病院も視察して参りました。地域包括ケアシステムには医療の連携が必須ですが、同時に日々の暮らしを平穏に心豊かに過ごすことのできるサービス付き高齢者向け住宅の必要性を改めて感じた次第です。そこで、両津病院跡地を両津夷CCRCゾーンとしてはどうかと考へます。また、旧両尾小学校においては、廃校利活用による太鼓体験型CCRCをつくれなかと考へます。いずれも行政がコーディネーター役を果たし、民間企業による事業推進が必須だと考へますが、佐渡市の見解をお聞かせください。

## (2)環境の島づくりについて

### ①環境省の一部を佐渡へ誘致という提案

### ②佐渡空港 2,000m化の方針と経済波及効果

### ③シュタットベルケ（自治体所有の公益企業）という考え方

去る10月に佐渡トキ野生復帰10周年記念式典・放鳥式に参加させていただきました。眞子内親王殿下をお招きし、環境大臣や新潟県知事など、たくさんの方にご来島いただき式典が成功裏に終わったことは、本当に素晴らしいことだと感じるとともに、誇らしい思いがしました。そして、環境省の一部でも環境の島、佐渡へ誘致できないかという思いを募らせました。『環境の島、佐渡』として、トキとの共生を目指す環境保全型農業は、世界農業遺産登録や朱鷺と暮らす郷米づくりによって国内外から一定の評価を得たと考えます。今後、自然エネルギーの普及推進も見据え、佐渡が本当の意味での『環境の島』となり、全国のモデルとなるように環境省の一部でも誘致し、実践のフィールドとして位置付ける提案です。環境省約3,100人の職員の内、例えば10%にあたる310人程度が東京から佐渡に移り住み、仕事をしていただくことで、経済波及効果や空き家利活用、逆参勤交代制度の実施、雇用創出等、様々なメリットが考えられます。省庁移転では、文化庁の京都移転について、外交や国会対応、関係省庁との調整や政策企画立案などの業務についても現在と同等以上の機能とすることを前提とし、遅くとも2021年度中の本格移転を目指すとされています。徳島県が求めた消費者庁は2017年7月、徳島県庁に約50人規模の事務所を開設しています。佐渡市として環境省の一部を誘致することは決して容易ではありません。実現には当然、国・県との強力な連携やかなりの時間が必要不可欠です。佐渡が、『環境の島』として未来永劫輝き続ける一手段として、誘致をどう考えるか佐渡市の見解をお聞かせください。

次に、佐渡空港2,000m化の方針と経済波及効果についてお尋ねします。上記、首都圏と佐渡とのつながりやインバウンド観光の受け入れ促進等を鑑みれば、総工費約200億円の県営佐渡空港2,000m化は必要不可欠な事業と考えます。当然、雇用創出にも大きく寄与します。また、インシヤルコストとランニングコストの試算および佐渡版産業連関表を活用した経済波及効果の算出は必要な作業の一つであると考えますが、プロジェクトの方針および進捗状況について、佐渡市の見解をお聞かせください。また、佐渡出身の花角英世新潟県知事は、県営佐渡空港2,000m化についてどのようにお考えと認識しているのかお教えください。

最後に、シュタットベルケ（自治体所有の公益企業）という考え方についてお尋ねします。シュタットベルケとはドイツ語で直訳すると『町の事業』を意味する言葉です。ドイツにおいて、電気、ガス、水道、交通などの公共インフラを整備・運営する自治体所有の公益企業（公社）のことです。佐渡市において生活インフラの整備はコストが合わず、自然エネルギーの利活用については遅々として進まないというのが実際のところだと感じています。そこで、抜本的な対策の一つとして、佐渡版シュタットベルケについて検討してはどうかと考えますが、佐渡市の見解をお聞かせください。

### (3)持続可能な佐渡市政運営について

#### ①持続可能な財政運営

#### ②SDGs（持続可能な開発目標）の取り組み⇒SaDoGsへ

#### ③ソサイエティ（社会）5.0へ向けて

持続可能な財政運営についてお尋ねします。本年度の監査の意見書の最終ページには『自然災害等による補正予算が多く、災害復旧費等の合計 19.6 億円のうち 13.3 億円は一般財源であり、主に財政調整基金の取り崩しによるものである。不測の事態ではあるものの、結果として財政計画を大幅に超えた一般会計の執行となり、今後の財政を圧迫することとなる。また、財政の硬直化が進んでいることから、財政計画に即した予算の縮減にとどまらず、痛みを伴う積極的な行政改革を断行することが必要である』との記載があります。佐渡市にとって大変耳の痛い話であると思います。持続可能な財政運営をどのようにして実現するつもりなのか、佐渡市の見解をお聞かせください。

次に、SDGsの取り組みについてお尋ねします。SDGsとは持続可能な開発目標のことで、Sustainable Development Goalsの略です。2015年に国連本部で日本を含む193の加盟国の合意の下で採択された「世界を変革するための17の目標と169のターゲット」のことで、持続可能性を地球規模で考えた時に、非常に重要な目標であり、一部民間企業や日本青年会議所等も力をいれてSDGsの実現に取り組もうとしている状況にあります。そこで、佐渡市としてSDGsに関してどのようなことに取り組んでいるのか、取り組もうとしているのか佐渡市の見解をお聞かせください。

最後に、ソサイエティ 5.0へ向けた状況についてお尋ねします。ソサイエティとは社会のことです。つまり、人類の進化のプロセスであり、①狩猟社会⇒②農耕社会⇒③工業社会⇒④情報社会⇒⑤超スマート社会という5番目の社会の到来が目の前に近づいてきている状況にあると言えます。一次産業においては、AI（人工知能）が頼れるサポート役として農家の皆さんなどのために、大いに活躍してもらえる未来が見えてきました。日曜ドラマ『下町ロケット』の『宇宙から大地へ』のとおりです。そこで、ソサイエティ 5.0へ向けて佐渡市としてどのようなスタンスで取り組んでいるのか、佐渡市の見解をお聞かせください。

以上で、一回目の質問を終了します。

---

---